



柱	基本方針			取組 具体的行動	実施時期																
	方向性	取組内容	目指す姿		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期			
2 子どもの主体性を育てます	子どもの主体性を育む授業へ転換します	主体的・対話的で深い学びの教育を進めます	友達の意見を大事しながら、主体的に課題解決に取り組む子ども	主体的・対話的で深い学びをふまえた校内授業研究を実施します。子ども同士がしっかりとつながり、互いの思いを大切にしながら話し合いができる態度を培います。		理論研	授業研							授業研			授業研		継続	継続	
	子どもが参画する学校づくりを行います	学校行事は子ども主体で行います	集団への一員であることに対する自覚を高め、人と人とのふれ合いやつながりを深める子ども	児童会で学校における諸問題について考え、行事については児童が主体となって話し合い、実施します。	会議 1年生を迎える会	会議	会議 運動会	会議		会議			会議	会議 自然学校 修学旅行	会議 図工展	会議 長尾台祭り	会議	会議 6年生を送る会	児童が主体の企画・実践・検証を定着させる	児童が主体の企画・実践・検証を定着させる	
	児童会・生徒会を活性化します	サミットで学校間交流を図ります	学校や地域の課題を把握し、課題解決に向けて思考する子ども	市で行う児童会サミットに参加し、意見交換を行います。	創意工夫のある常時活動			サミット	サミット結果を全児童に報告	創意工夫のある常時活動									拡充	拡充	
	子どもへのエンバワメントを促進します	CAPの活用と検証を行います	自分の思いを言葉や態度で表現できる子ども	第3学年でCAPの授業を行い、自分の心と体を守る予防教育を実施し、その成果と課題をつかみます。				授業 検証												継続	継続
		いじめ防止教育につながるゲストティーチャーの授業を行います		弁護士や警察官、大学教授など、人権に関する講師による児童対象の出前授業を実施します。										授業						継続	継続
4 チーム学校で取り組みます	学校の組織対応力を向上させます	教師がSOSを出せる教師集団を作ります	同僚性を高め、互いに信頼し合える教職員	学年や専科の枠を超えて相談できる場やチームで対応できる体制の充実を図ります。						討議							討議		継続	継続	
		多職種連携を推進します	互いの専門性を信頼し、連携できる学校組織	各担当、SC、SSWがそれぞれの専門性を活かし、各ケースに対応したチーム会議を開催します。	ケース会議														継続	継続	
	地域ぐるみで子どもを見守ります		情報を発信し、家庭・地域に開かれた学校	学校運営協議会、青少年育成市民会議等で、学校の様子を説明し、地域で子どもを育むことの協力を求めます。			運営協議会							運営協議会				運営協議会	継続	継続	
	子どもを育む地域や関係機関との連携を行います	保育所・幼稚園・小中学校の連携を強化します	中学校区における目指す子ども像の実現に向けた教育の連携を推進する保幼小中学校園所	中学校区の子どもの実態等の情報交換を行い、いじめに対する学校の指導体制・指導内容の充実を図ります。			中学校で 体験授業	連携会議	共有					幼稚園児を招いた祭り	中学校部 活見学と 体験授業	幼稚園との交流給食と交流授業	引継ぎ会	継続	継続		
	関係機関との連携を図ります	関係機関と情報を共有し、迅速に対応できる学校組織	学校の各ケースについて、常に家庭児童相談室、青少年センター等と組織的に連携を図ります。	連携														継続	継続		
5 ハラスメントを根絶します	体罰を根絶します	体罰の禁止を徹底します	子ども一人ひとりの人権を守ることに徹する教職員	体罰・ハラスメントの根絶に向けた事例研修を実施し、教職員の人権意識を高めます。生徒指導の基本的ルールを共有し、適切な生徒指導を進めます。	研修					研修					研修			継続	継続		
	あらゆるハラスメントを根絶します	あらゆるハラスメントを根絶します			研修					研修				研修				継続	継続		